

『常念岳（北アルプス）』山行報告

記：牛山

1 メンバー

L谷内、牛山

2 期日

2014年12月27日(土)~29日(月)

3 行程

①12月27日

天気予報が思わしくなく、入山日を一日早めての山行となった。

烏川ゲートP（ほりで一ゆー前）に6時30分に到着する。川崎No.の5人パーティーが前夜からテント泊でいたが、常に私たちの後ろで行動していた。

ゲートの先からは雪道となる。積雪は20cm程あるが潜ることは無かった。下りだろうか歩幅の広いワカンのトレースがあり、それに沿って進んだ。積雪のせいで倒木が道をふさいでいるところでは潜ったり・超えたりがあり、重荷がこたえた。林の中から叫び声がして驚いて見ると、ニホンザルが群れで食事していた。ボス猿のような勇敢な一匹が「ギャー！ギャー！」と叫んでこちらを威嚇していた。辺りには彼らが食した残骸と思われる皮が食された後の青い木の枝が転がっていた。温泉につかって人から餌をもらっているサルよりも、よっぽど頼もしさを感じた。

尾根への取付は、大平原を過ぎて林道は大きく蛇行したすぐの所にペナントがありすぐ分かった。そこからワカンを付けラッセルが始まった。重い泊り装備を背負っての登りに体力が一気に消耗していくのが分かる。二人でラッセルを交代しながら、傾斜は徐々に緩やかになっていき11時30分1596mピークに到着する。2年前はこの辺りで幕営したが、今回はその上の2024mピークまで頑張った。天気は快晴で、気持ちに元気を与えてくれる。途中、単独Pの人が2名ラッセルに加わってくれた。何と1名は、日帰り単独行者だった。（前常念手前で引き返し、暗い中を下山していった。）

14時、2024mピーク先の平地をテン場と決めて日のあるうちにテントを設営する。

②12月28日

昨日、単独行の二人がトレースを残してくれることが分かったので、日の出時に森林限界に付くように、3時半起床・5時出発の予定とする。

TS発5時10分。きれいな星空や安曇野の夜景を眺めながら、先行者のトレースを使ってどんどん進むことができた。森林限界手前の僅かな平地に単独行者のテントがあった。ラッセルのお礼を言って、一足先に岩稜に取り付く。前常念へは3本の岩稜が伸び、その内最も左の尾根に取り付いてから登る。その踏替点の目印にペナントをカンバの枝に縛った。6時54分、遠く八ヶ岳から快晴の空へ美しい日の出を仰ぐ。思わず手を合わせたくなるような光景だった。

7時40分、前常念岳に到着した。石室小屋はすっかり雪に埋まっている。ここで単独行のお兄さんが追い付き、言葉を交わす。初めての常念岳とのこと。体力のある彼はその後私たちより先に行く。8時40分、常念岳山頂到着。山頂には小さな祠と移動可能な看板があり、写真を撮った。いつもは交代で撮るので一人しか写らないが、今回は単独行の彼にシャッターを押してもらった。快晴微風で360°の美しいパノラマが広がっていた。槍穂高の眺めは美しかった。遠く御嶽山頂からは今だ噴煙が登り、追悼の思いを胸にシャッターを切った。

下降を始めると、風が出てきた。時々通り過ぎる強風で、地吹雪のようになり視界を遮られることもあった。早くも明日の悪天を感じさせる瞬間だった。

③12月29日

南岸低気圧のため、昨夜9時頃から雪が降り始め風も強まった。夜半から風は収まり静かに雪が

降る。積雪はT S付近で20cm程積もった。

テントを撤収し、5時45分には下山を開始する。降雪のため心配したトレース跡も識別でき、7時には取付点の林道に出ることができた。登る時にはそれ程までには感じなかったが、下ってみると結構急な斜面で、滑ったり・転んだりした。

4 コースタイム

①12月27日（快晴）

スポーツ公園 5:00——烏川ゲートP（ほりで一ゆー前） 6:30——大平原 9:00——尾根取付 9:20
——1596mピーク 11:30——2024mT S 14:00

②12月28日（快晴）

T S発 5:10——三股夏道合流点 5:40——森林限界2400m付近 6:20——前常念 7:40——
常念岳 8:40——T S 10:45

③12月29日（雪）

T S発 5:45——取付 7:00（大平原の上）——烏川ゲートP 9:00（ほりで一ゆー前）



<八ヶ岳からの日の出>



<前常念への岩稜>



<前常念より奥穂・北尾根を望む>



<前常念岳山頂>



<御嶽山の噴煙 合掌>